

〈報告〉

新・未来プロジェクトⅢを振り返って

入 江 和 大

(株)堀場アドバンスドテクノ

(〒601-8306 京都府京都市南区吉祥院宮の西町31番地 E-mail: kazuhito.irie@horiba.com)

概 要

環境システム計測制御学会 (EICA) では、産官学の若手技術者・研究者における組織の枠を越えて交流し、将来の仕事および活躍のために有用で新たな人材ネットワークを形成することを目的とした未来プロジェクトを2005年より毎年開催しています。本プロジェクトの8期目にあたる新・未来プロジェクトⅢのメンバーとして2012年12月から約1年間にわたって活動した内容とその効果などについてまとめました。

キーワード：若手技術者、人材育成、人材ネットワーク

原稿受付 2013.12.19

EICA: 18(4) 50-51

1. は じ め に

EICA では、産官学の若手技術者・研究者の枠を越えて交流し、将来の仕事および活動のために有用で新たな人材ネットワークを形成することを目的に本プロジェクトを設置し、2005年より毎年開催しています。これまで7期にわたって「ライフサイクルアセスメント」、「日本の環境技術と海外展開」、「災害に強いしなやかなライフライン」といった先進的なテーマを取り上げており、このプロジェクトには延べ100名を超える若手技術者が参加しています。2011(6期)からは、これまでのプロジェクト卒業生が主体となり運営している“新”未来プロジェクトが始動しています。

2. 新・未来プロジェクトⅢ(8期)の活動内容

2012年12月から始まった8期目にあたる新・未来プロジェクトⅢでは、東日本大震災からの経験を踏まえ「これからの日本とエネルギー」をテーマとして開催されました。

本プロジェクトは上下水道分野における産官学から23名の若手技術者・研究者で構成され、2012年12月より計5回(Table 1)のセミナーが開催されました。セミナーでは、さまざまな分野で活躍しておられる「先輩」を講師とし、最先端の話題から幅広い話題を講演いただきました。

また、本プロジェクトの特徴としては、各公演の後、メンバー同士の討議の場となり、「先輩」達からのアドバイスをいただきながら、解決策の検討やアイディ

ア抽出を行うことです。

さらに、総まとめとして、EICA 第25回研究発表会にて、「これからの日本とエネルギー」の実現に必要な4件(Table 2)の提案ポスターを発表した。提案の詳細は学会誌を参照していただきたい。

Table 1

	講演内容等
第1回	講演 「私たちの暮らしとエネルギー」 講師 当麻 潔 (大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所 (CELL) 主席研究員)
第2回	講演 「自然エネルギー政策を活用する」 講師 山下 紀明 (NPO 法人環境エネルギー政策研究所主任研究員)
第3回	講演 「スマートグリッドとスマートコミュニティ —— その現状と課題 ——」 講師 石田 文章 (関西電力株式会社総合企画本部地域エネルギー開発グループ担当部長)
第4回	講演 「地域からのエネルギー改革：菜の花プロジェクトから学ぶ」 講師 藤井 絢子 (NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)
第5回	講演 「～地域からエネルギーを考える滋賀県における再生可能エネルギーの振興について～」 講師 富家 信次 (滋賀県商工観光労働部地域エネルギー振興室 参事)

Table 2

	研究発表テーマ
A チーム	「地域に適した新エネルギー・新技術の検討と提案」
B チーム	「地域と植物工場」
C チーム	「地域に適した未利用エネルギーの活用方策シナリオ」
D チーム	「再生可能エネルギー技術の海外展開に向けた戦略」

3. 活動を振り返って

様々な講演を聞かせてもらうことにより、今回のテーマである「エネルギー」に対する知識や考え方の幅が広がりました。それに加えセミナー後の討議の場は、非常に有意義な時間であったと感じています。第1回目の討議の場では、自分たちの持っている知識、固定概念、物事の考え方や捉え方に固執してしまい、自由な発想が出来ず“未来”的ではなく“現実”的な発想に留まったことを記憶しています。毎回の討議の場では、物事に対して幅広く、様々な方向から見ることの大切さ必要さに気づかされました。また、多業種から参加しているメンバーとの討論ということもあり、新たな専門知識に加え、新たな視野という多くの刺激

を受けることができ、1年間の活動を通して、本プロジェクトの目的でもある良好なネットワーク形成が出来たと感じています。

我々、若手技術者は通常業務の中だけではこのような多業種とのかかわりを持つことは難しいですが、年数を重ねるにつれ要求されるレベルは高まり一個人、一組織だけでは解決できないことが増えてきているように感じています。今後、この場で築かれたネットワークが有効かつ最高の手段となることは間違いありません。

最後に、このような機会を与えていただいた関係者の方々に感謝するとともに「先輩」方の期待にこたえるべく、この知識、視野、ネットワークを最大限に活用していきたいです。